

ご 挨拶

(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業

CREST 水循環研究領域

研究総括 虫 明 功 臣

水は、一部の化石水を除き、時間的・空間的に偏在かつ変動しながら絶えず循環しています。その循環の仕方は、自然現象として変動すると同時に、人間活動によって変化するのが重要な点であります。我が国では、第2次大戦後の急激な人口増加と経済発展により様々な水問題が発生し、現在では危機的な状況は克服したものの、未だ水環境汚染や水災害への脆弱性など解決すべき多くの課題があります。いっぽう、世界に眼を向ければ、20世紀後半からの爆発的な人口増加と人間活動の拡大は21世紀前半も継続し、水問題が拡大・深刻化することが懸念されています。

国は、“世界的な広がりをもつ水問題は、国家間の紛争を引き起こす要因となる可能性を秘めており、上水の供給や食糧生産などのための安定した水資源の確保は、我が国を含め、世界の安定と福祉の向上に資する重要な課題である”という認識の上に、平成13年度に戦略目標「水の循環予測及び利用システムの構築」を設定し、これを受けて、この研究領域「水の循環系モデリングと利用システム」が科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業（CREST）として発足しました。

水問題に対する様々な懸念を科学的に解明する“水循環系に関するデータの集積・解析とモデリング”と共に、問題解決に向けて水循環系と人間との好ましい関係を築く“利用システムの構築”を目標に17課題の研究が進展しました。すでに平成13年度に発足した6研究課題は平成19年3月末をもって終了いたしました。この度の第4回領域シンポジウムでは、平成14年度にスタートした6研究課題については5年間の研究成果を口頭報告し、ポスター報告では、平成14年度の6研究課題に加えて15年度に採択された5研究課題について報告させていただく予定です。

このCREST水循環領域の研究も発足から6年目を迎え、日本国内はもとより世界に発信できる優れた成果を挙げています。この機会に「水の循環系モデリングと利用システム」の研究活動に対してご理解賜りますよう、皆様方のご参加をお待ちしています。